

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4150380014
法人名	医療法人 好古堂
事業所名	グループホーム すむのさと
訪問調査日	平成 19 年 9 月 26 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 15 日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4150380014
法人名	医療法人 好古堂
事業所名	グループホーム すむのさと
所在地	佐賀県鳥栖市高田町206番地1 (電話)0942-84-5888

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号
訪問調査日	平成19年9月26日
評価確定日	平成19年11月15日

【情報提供票より】(19年 8月 27 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日
ユニット数	3 ユニット
職員数	20 人
利用定員数計	27 人
常勤 20 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 4階建ての1階～3階部分
------	----------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	50 円
	または1日あたり 1,000 円			

(4)利用者の概要(9月26日現在)

利用者人数	16 名	男性	0 名	女性	16 名
要介護1	9 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4			
要介護5		要支援2	1 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	すむのさと高尾病院(内科)、新古賀病院(内科・外科)、原歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道と県道が交差する田園地帯の一角に立ち並ぶ4階建ての建物の一部が事業所である。敷地内には広い畑があり利用者は経験や知識を活かすなどして野菜作りや季節の花作りなどを楽しんでいる。また、併設施設と合同での行事も多く利用者は家族と一緒に参加している。利用者は併設施設の温泉やリハビリを活用出来、尊厳を旨とする職員の支援を受け楽しく日々を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	1. 運営理念の啓発について理念や役割を記載したパンフレットや新聞を地域に配布したり行事で来訪した人たちに配ったり、運営推進会議で説明するなど啓発・広報に努めている。2. 入浴を楽しむことが出来る支援については夜間の入浴は出来ていないが日中は毎日利用者の希望・タイミングに合わせて対応できるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で自己評価を項目ごとに振り返り、具体的な課題を見つけ、フロア会議等で意見を出し合い改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の中で提案された事については、前向きに取り組んでおり、「すむのさとの場所や事業の内容がよく分からない」などの意見に対しても新聞に掲載して地域に配布するなど対応している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や家族会、施設訪問時のアンケート等で意見・不満・苦情がないか常に問いかけ、何でも話してもらえるような雰囲気作りに努めている。出された意見・要望等はミーティングや運営推進会議で検討・改善している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の一員として自治会に入っており、また、地域の役職者等で組織する運営推進会議も機能している。区長や民生委員等に呼びかけ施設の行事等には参加してもらっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はあるが、地域密着型サービスとしての内容・文言が入っていない。	<input type="radio"/>	利用者が地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、また、その役割を目指した内容を盛り込んだ理念の作成を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を明記した名札を下げ、業務開始前に復唱したり、ミーティングで触れ、話し合ったりしてその共有化を図っている。また、日々の意識・行動に常にそれを生かせるように努力している。	<input type="radio"/>	掲示されている理念の文字が小さく読みづらい面もあるので、見やすく、分かりやすい掲示となるような工夫も期待したい。
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており、区長や民生委員等に呼びかけ施設の行事に参加してもらっている。地区行事で清掃作業があれば施設周辺の道路掃除等は職員で行っている。	<input type="radio"/>	
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を行い、振り返り、また、外部評価結果を踏まえて、具体的な課題を知り、フロア会議等で改善に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	評価で出された課題について、どのように検討・改善していく一連の過程をより定着させていく為のものとして改善計画シート等の作成も期待したい。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催の運営推進会議では意見や要望等が出され、検討事項や懸案事項について検討結果や取り組み状況が報告されている。	<input type="radio"/>	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設行事に民生委員等にボランティアの依頼をしたりしているが市の担当者や社会福祉協議会の担当者との係わりは少ない。	○	ともにサービスの質の向上に取り組むためにも、市の担当者等との積極的な係わりが期待される。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「すむのさと新聞」を発行している。また、家族とは訪問時や必要に応じ電話で種々の報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や家族会、または、施設行事時のアンケート等で常に問いかけ、何でも話してもらえるような雰囲気作りをしている。出された意見や要望はミーティングや運営推進会議で話し合い、改善に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	フロアー(ユニット)の職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを実施している。やむを得ず変わる場合は利用者きちんと紹介し、関わりのある職員と組ませるなどダメージを最小にする努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は新人研修をするほか、全職員に法人内の月例研修会や勉強会、外部の研修等に積極的に参加している。また、資格取得のための研修にも順番に参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は地域の同業者の施設訪問や情報交換等を行い、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前相談で本人の状態、本人・家族の要望・意向を把握し、また、見学してもらい、雰囲気その他を体感してもらうことによって不安を取り除くように努めている。また、入居当初はできるだけ回数多く家族に訪問してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日ごろから料理、お菓子作り、野菜(畑)作りなど利用者から教えてもらうことも多く、また、そうした場面作りにも配慮し、ともに過ごし支えあう関係が生まれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりの中で情報を多面的に捉え、また、会話・表情・行動等からその真意を推し量ったり、それとなく確認するなど本人の希望・意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの関わりの中で得た本人・家族の意向・希望を反映させ、全職員で話し合い介護計画を作成している。なお作成した介護計画は家族の承諾を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月・6ヶ月ごとに見直している。また、状態・状況の変化や本人・家族の要望に応じて随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じて通院や外出、外泊等必要な支援は柔軟に対応しており、また、同一敷地にある法人のデイサービスの温泉や老健施設のリハビリなども、利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人なじみのかかりつけ医、または本人・家族が希望する協力医療機関の中のかかりつけ医となっている。原則は家族同行の受診・通院であるが、不可能な場合は職員が代行しており、それぞれのかかりつけ医とは良好な関係を保っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度者や終末期の人の対応は行っていない。重度化した場合の対応については本人・家族とも利用前の段階で理解してもらっており、また日常の健康管理や急変時の対応等はかかりつけ医とも相談しながら家族訪問時等に話し合い確認しあっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助等の声かけはさりげなく行われている。個人情報の施設内掲示や広報誌への掲載には本人・家族の同意を得るなど全職員が人としての尊厳を重視し、誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、利用者の希望を優先し、本人のペースを大切にすることで、職員は一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本的には法人併設施設から届けられる料理があり、それを盛り付けたり・注ぎ分けたりなどの作業や配膳、片付け、食器洗いなど利用者も一緒に行っている。また、材料のみ受け取り調理することもある。食事は利用者、職員とも同じテーブルで和やかに楽しくとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者本人・家族の協力と同意を得て夜間の入浴は行っていないが、毎日、希望に合わせた好きな時間に入浴を楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態・意欲に応じて、得意分野でそれぞれその人の経験や知恵を発揮してもらっており、お礼の言葉も伝えている。また、そのための声かけや場面作りにも配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設での外出行事のほか、その日の天候を見ながら散歩したり、買い物に行ったりと声かけしながら支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の個室には鍵はかけられていない。施設の出入口には鍵がかけられているが、時間を決めて開錠することになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時の災害対策マニュアルはあり、併設施設と協力しての訓練は行われているものの、参加者は職員のみで利用者や地域の方々を含めての訓練は行われていない。	○	夜間は2F、3Fを1人でみており、職員だけの指導の限界を具体的に確認し、地域住民や消防署との連携を図りながら災害対策の協力体制を築いていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士が管理し調理したものを配食して貰っている。食事・水分の量はチェックし、大まかに栄養摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には不快な音や臭いはない。玄関や食堂兼居間には季節の写真や飾り、また草花等が活けられている。食堂兼居間の棚はいかにも家庭的に飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室にはダンスやテレビをはじめ本人が使い慣れたものが持ち込まれ、写真等も飾られるなど利用者の居心地のよさに配慮している。		